

科目名	他様式尺八実技 I～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

日本の伝統楽器である尺八をより身近に感じ、楽器の仕組みや吹奏方法だけでなく、半期でも多種多様な曲を演奏したり、合奏可能なレベルを目標とする。

＝履修の条件と学習の方法＝

必携：都山流音譜解説。

楽器は木管の他、プラスチック、樹脂管でもよい。

基本的には都山流尺八のカリキュラムに則った形とし、個人レッスンとする。

＝授業内容＝

専攻) I II (1年次)

今後の演奏活動に向けて、基本奏法から見直し、アンブシュアの形状から運指まで幅広く検証していくと共に、様々な奏法を学習し、実用的な技術の会得を目指す。

又、箏、三味線との合奏へ向け、古典曲から大正、昭和までの楽曲の楽曲が持つ特性を学習し、具体的な奏法についても学習していく。

III IV (2年次)

1年次で会得した技術を洗練し、独奏曲や合奏曲の利用を目的とした奏法や具体的な箇所について学んでいく。また、古曲の譜面を詳しく読解し、都山流やその他の流派に於ける技法の学び、実際の演奏に適用していく。また数ある古曲のレパートリーを増やすと共に、高難度曲を練習する。

V VI (3年次)

主に古曲から新曲にかけて吹奏する。

宮城道雄、久本玄智など数多ある作品を解析し、古曲の奏法、新曲の奏法やルールを学んでいくと共に、都山流本曲も習得する。

VII VIII (4年次)

3年次までに得た技術に基づいて、古曲や本曲の最高難度を吹奏する。

また、それらを生かし現代邦楽に挑戦する。

副科)

教則本に沿って、吹奏方法を学んでいく。それに併せて、文化や歴史に対する理解を深めることが望ましい。

上達するに従い、古曲～現代曲のうち、好みの作品を練習していく予定である。

二期以上の受講では、達成度に応じて、演奏技法を追及するだけでなく、現代曲や難易度の高い楽曲に挑戦する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

各学期の最終授業日に到達度に見合った課題曲の吹奏により採点、評価を行う。

＝その他＝

楽器等の購入を考えている学生は、教員に相談すると良い。

